小牧山城築城４５０念記念事業

信長と連歌師の宝

関係する事柄の解説＜STAGE2 用＞

1.戦国時代から江戸初期の頃の小牧

小牧は、15 世紀には清須を中心とする尾張の交通の大切な場所でした。

1563 年、織田信長は美濃を攻めるための拠点として小牧山に城を作り、山の南に城下町を作りました。1567 年に信長は稲葉山城（岐阜城）に移りましたが、町はそのまま存続しました。

1584 年、豊臣秀吉と徳川家康との対立から「小牧・長久手の戦い」がありました。このとき、家康は小牧山城を改修して使用し、秀吉は犬山城に入りました。戦いは、小牧山城と岩崎山砦との対立などの布陣から始まり、長久手地域での戦闘へと展開していきました。

1623 年、木曽の山林を持っていた尾張藩は街道を整備し、小牧山のふもとにあった町を現在の市街地（当時は原野だった）に移して新たな宿駅を作ることにしました。この移転には約 10 年かかり、ここに「小牧宿」が誕生しました。

2.小牧宿

小牧宿は木曽街道（上街道）に沿って町並みが作られました。街道は現在の上街道商店街から入って突き当たりの戒蔵院を東に行き、ラピオ西の交差点を曲がって北に向かっていました。

3.連歌

和歌から発展した伝統的な詩歌の形式で、多人数による連作を基本とします。室町時代から江戸時代初期には盛んに歌会が行なわれました。１つの句を五七五または七七とし、１人が１句ずつ前の句につなげて詠み、百句をもって１つの作品（これを「百韻」と言う）とするのが一般的でした。

4.里村紹巴

戦国時代の連歌師で、多くの久家や武将との交流がありました。伝説によれば、小牧山城築城の折、織田信長が里村紹巴を呼んで祝儀の歌百韻を催したとあります。信長から発句を求められた紹巴が「あさ戸あけの麓は柳さくら哉」と詠んだところ、信長は「新しい城の竣工に”あける”というのは不吉だ」と機嫌を悪くしてなじったそうです。

このとき紹巴が泊まったとされる玉林寺の山門の前には、「居士紹巴之塔」があります。

5.駒止庭園

小牧駅の西にある庭園です。「小牧・長久手の戦い」のとき、本多忠勝がこの付近にあった松の老木に馬をつないだことから、この名前がついたと伝わります。

6.本多忠勝

徳川四天王に数えられる戦国武将です。槍の名手として有名で、「蜻蛉切り」という銘の槍を愛用していました。

7.古田織部

信長・秀吉・家康に仕えた戦国武将の古田重然のことです。茶道・造園などに力を発揮し、「織部好み」と呼ばれる一大ブームを起こしました。

8. 篠岡古窯跡群

篠岡地区では、7 世紀から 12 世紀にかけての窯跡が密集して発見されており、当時の尾張地方の中心産地でした。桃花台中央公園には、古窯の 1 つ（47 号窯）が移設保存されており、常時見学することができます。

9. 在原業平

平安時代の貴族です。和歌に優れ、三十六歌仙の一人に数えられます。一説には稀代のイケメンだったとか。「古今和歌集」に収められた「から衣 きつつなれにし つましあれば はるばるきぬる たびをしぞ思ふ」の歌は、杜若の折句で有名です。

10.宇都宮神社

境内には尾張地区最大級の前方後方墳（宇都宮古墳）があり、銅鏡（三角縁獣文帯三神三獣鏡）が出土しました。また、在原業平が東下りの際に詠んだといわれる「飛車山　ふもとに見えし　里の名は　たが言いそめて　こきといふらん」の歌碑があります。

11.本居宣長

江戸時代の国学者で、「古事記」の研究で有名です。鈴のコレクターでもありました。

12.国学

江戸時代の中期に盛んになった学問で、日本独自の文化・思想、精神世界を日本の古典や古代史の中に見出していこうとするものです。

13.楠本イネ

日本人女性で初めて産科医師として西洋医学を学んだことで知られています。父親はドイツ人のシーボルトですが、オランダ人と偽っていたため、「オランダおいね」とも呼ばれます。その技術は高く評価されました。「失本」は改名前の苗字で、「シーボルト」の当て字です。

14.間々観音

正式には飛車山龍音寺（注：「飛車山」は小牧山の別名）といいます。日本で唯一のお乳の寺として知られています。始まりは 1508 年あるいは 1492 年と言われ、その頃は小牧山の西側にありましたが、信長の命により今の場所に移りました。伝説では、鹿を射ようとした狩人の前に観音様が現れ、殺生の罪を悟った狩人がその地に堂を建てて奉仕したと言われています。その場所が小牧山の観音洞です。